

2023年1月5日

日本証券金融株式会社  
取締役 二子石 謙輔 様

株式会社ストラテジックキャピタル  
代表取締役 丸木



## 「天下り」の実態調査を求める議案に対する賛成の意見表明のお願い

ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

弊社は日本証券金融株式会社（以下「日証金」といいます。）の大株主であり、弊社が招集を請求している株主総会において決議予定の「会社法第316条第2項に定める株式会社の業務及び財産の状況を調査する者の選任の件」の議案（以下「調査者選任議案」といいます。）について、日証金の取締役会においてご賛同の意見表明をしていただきたく、本書簡をお送りしております。

### 記

別紙の通り、日証金においては日本銀行、財務省及び東京証券取引所（以下「東証」といいます。）出身者が特定の地位に過去四半世紀以上にわたって就任し続けているという事実が存在します。そして、この事実を知った以上、弊社は株主として、日証金が「天下り」の巣窟となっており、ESGの「S」と「G」の観点から致命的な問題を抱えているのではないかと、強い疑念を抱かざるを得ません。さらには、朝日新聞 2022年7月14日付の朝日新聞には、「この会社で社長になれるなんて、考えたこともない」という日証金の従業員の発言が取り上げられました。ただし、この現状に対して独立社外取締役であり指名委員会委員長である小幡尚孝氏、さらには代表執行役社長である櫛田誠希氏はともに「公正な人事の結果である」と公言して憚らないのです。

弊社は利益を追求する機関投資家であり、櫛田誠希氏をはじめとする天下りした方々に対して社会的な制裁を与えることを企図してはおりません。しかし、日証金が「天下り」という悪しき慣習を脈々と受け継いだ結果、従業員は意欲を失い、天下り前の数倍の報酬をもらう経営トップは株主価値向上に関心が低いことから株主価値は毀損され、株価は低迷しています。この状況を日証金経営陣が無視している以上、天下りの実態解明を求める調査者選任議案を通じて改革を求めなければ、日証金の未来はないと判断しました。

株式会社三菱 UFJ 銀行を経て、株式会社セブン銀行では経営者として同社を牽引されてきたご経験をお持ちの二子石取締役におかれては、このような不透明な人事慣行に対する問題意識をご共有いただけるものと確信しております。

そこで、二子石取締役におかれては、日証金の取締役会において調査者選任議案に賛同の意見表明を行っていただきたく、本書簡をお送りしております。仮に取締役会としての意見が反対であっても、取締役会の中に賛同の意見が存在したことで、これは日証金にとって大きな希望となります。

天下りの蔓延る日証金取締役会において天下りの調査に賛同する意見表明を行うことは容易では無いかもかもしれませんが、独立したお立場の社外取締役として、ご決断いただけますと幸いです。

以上

2023年1月5日

日本証券金融株式会社  
取締役 山川 隆義 様

株式会社ストラテジックキャピタル  
代表取締役 丸木 強



## 「天下り」の実態調査を求める議案に対する賛成の意見表明のお願い

ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

弊社は日本証券金融株式会社（以下「日証金」といいます。）の大株主であり、弊社が招集を請求している株主総会において決議予定の「会社法第316条第2項に定める株式会社の業務及び財産の状況を調査する者の選任の件」の議案（以下「調査者選任議案」といいます。）について、日証金の取締役会においてご賛同の意見表明をしていただきたく、本書簡をお送りしております。

### 記

別紙の通り、日証金においては日本銀行、財務省及び東京証券取引所（以下「東証」といいます。）出身者が特定の地位に過去四半世紀以上にわたって就任し続けているという事実が存在します。そして、この事実を知った以上、弊社は株主として、日証金が「天下り」の巣窟となっており、ESGの「S」と「G」の観点から致命的な問題を抱えているのではないかと、強い疑念を抱かざるを得ません。さらには、朝日新聞2022年7月14日付の朝日新聞には、「この会社で社長になれるなんて、考えたこともない」という日証金の従業員の発言が取り上げられました。ただし、この現状に対して独立社外取締役であり指名委員会委員長である小幡尚孝氏、さらには代表執行役社長である櫛田誠希氏はともに「公正な人事の結果である」と公言して憚らないのです。

弊社は利益を追求する機関投資家であり、櫛田誠希氏をはじめとする天下りした方々に対して社会的な制裁を与えることを企図しているわけではありません。しかし、日証金が「天下り」という悪しき慣習を脈々と受け継いだ結果、従業員は意欲を失い、天下り前の数倍の報酬をもらう経営トップは株主価値向上に関心が低いことから株主価値は毀損され、株価は低迷しています。この状況を日証金経営陣が無視している以上、天下りの実態解明を求める調査者選任議案を通じて改革を求めなければ、日証金の未来はないと判断しました。

日本を代表するコンサルティング会社である株式会社ドリームインキュベータの創業に参画され、経営者として同社を牽引されてきたご経験をお持ちの山川取締役におかれては、このような不透明な人事慣行に対する問題意識をご共有いただけるものと確信しております。

そこで、山川取締役におかれては、日証金の取締役会において調査者選任議案に賛同の意見表明を行っていただきたく、本書簡をお送りしております。仮に取締役会としての意見が反対であっても、取締役会の中に賛同の意見が存在したことで、これは日証金にとって大きな希望となります。

天下りの蔓延る日証金取締役会において天下りの調査に賛同する意見表明を行うことは容易では無いかもしれませんが、独立したお立場の社外取締役として、ご決断いただけますと幸いです。

以上